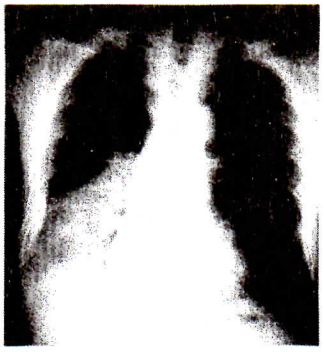
肺炎



肺に細菌などの感染が起こること

肺炎の治療

まずは病原体の推定

誤嚥しているなら嫌気性菌？
若年者ならマイコプラズマ？温泉帰りならレジオネラ？
→痰を採取して、病原体の推測を。

抗菌薬の投与

喀痰のグラム染色の結果などから、合いそうなものを選択。あとで培養の結果をみて変更する。

DOTsの推進.

Case-4

35歳の男性。
喫煙：10本/日。同居家族：妻と2歳男児。
3か月前から少し空咳あり、徐々に悪化していた。
健診にて異常影を指摘されたため来院。

痰の抗酸菌検査にてガフキー5号、PCRにて結核菌が検出されたため結核病棟に入院となった。

SpO2 96% (room air)、BT 37.2℃

酸に対して抵抗がある ex) 結核

抗酸菌の量. 0〜10号まである.

少しでも菌があると、その菌を培養してなんの病気かわかる.

Case-4

Q1. 肺結核はどんな病気ですか？
① 一次結核 ② 内因性再燃

せき，発熱…

Q2. どんな治療が行われると思いますか？
多剤併用（殺菌＋静菌）.

コノ薬は肝どうに負担大.

Q3. どんな点に注意して看護を行いますか？
院内感染防止，空調設備，禁煙指導，検体の処理

4種類の薬 → 2種類.
2ヶ月後

肺結核

（この画像はwikipediaにあったものです）

肺に結核菌が感染

排菌し、他人に感染させる危険のあるうちは結核病棟に隔離入院。

抗結核薬を3－4種類内服。

Case-5

65歳の男性。
喫煙：30本/日。
2か月前からの咳と息切れのため受診。左胸水より肺腺癌の細胞が検出されたため、入院となった。

SpO2 91% (room air)、BT 36.2℃